

第1学年 算数科学習指導案

児童 1年1組 24名
指導者 鈴木 郁子

1 単元名 「ひきざん」(東京書籍 1年②)

2 目標

11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を理解し、計算の仕方を操作や図を用いて考える力を養うとともに、計算の仕方を操作や図を用いて考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、今後の学習や日常生活に活用しようとする態度を養う。

3 単元について

本単元では、「10といくつ」という数の見方に着目し、11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を考え、理解し、計算することができる力を育成する。また、第11単元「たしざん」の学習で身に付けた、未習の計算の仕方について、数の見方を工夫し、既習の計算に帰着して解決する力をさらに伸ばさせていく。そのため、ブロック操作や図などを用いて計算の仕方を説明する活動を取り入れていく。ブロック操作をしたり、図に表したりして説明することで、問題解決の過程を共有し、次第に念頭で数の操作をイメージして計算することができるようにしていく。

4 児童の実態

児童は、算数の学習を楽しんでいる。答えが分かると挙手したり、黒板の前に出て発表したりすることにも意欲を見せている。しかし、問題場面のイメージ化が難しかったり、課題解決に時間がかかったりする児童もいる。また、思考が伴う学習になると、発表する児童は固定化する傾向が見られる。1学期から、絵や半具体物を活用しながら課題解決を図ってきているが、自分の考えを分かりやすく説明したり、考え方のよさを感じ取ったりすることに関しては個人差が大きい。一人一人が自分の考えをもち考え方を説明できるようにするために、算数的活動を多く取り入れながら学習を進めていく。

5 指導と評価の計画(10時間)

時間	ねらい・学習活動	評価規準(評価方法)		
		知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法(減加法)を理解する。			・態(ノート分析, 行動観察)
2		・知(ノート分析, 行動観察)	・思(ノート分析, 行動観察)	
3	前時までの学習を踏まえ、11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法(減加法)の理解を確実にする。		○思(ノート分析, 行動観察)	
4		・知(ノート分析, 行動観察)		
5 本時	11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、減数を分解して計算する方法(減々法)があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。		・思(ノート分析, 行動観察)	
6		・知(ノート分析, 行動観察)		
7	減法の計算能力を伸ばす。	・知(ノート分析, 行動観察)	・思(ノート分析, 行動観察)	
8				
9				
10	学習内容の定着を確実にするとともに、単元で学習したことのよさを感じ価値付ける。	○知(ノート分析, 行動観察)	○思(ノート分析, 行動観察)	○態(ノート分析, 行動観察)

・指導に生かす評価 ○記録に残す評価

6 本時の指導

(1) 目標

11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、減数を分解して計算する方法（減々法）があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。

(2) 本時の評価規準

評価の観点	おおむね満足できる状態	努力を要する児童への支援
思考・判断・表現	減数を分解して計算する方法（減々法）の仕方を考え、ブロック操作や図を用いて説明している。	ブロック操作を通して、減々法の仕方に着目させる。

(3) 研究の視点に関わっての工夫

- 「学習の見通し」の場面で、適切な取り方をつかませるために具体物を用いて、ばらから先にとる方法（減々法）に着目させる。
- 「学び合い」の場面で、ブロックや図を使いながら説明させ、減加法と減々法の2つを比較して、類似点や相違点に気付かせる。

(4) 展開

展開	学 習 内 容 と 活 動	・活動への支援（・） 評価【 】 視点◎
つかむ 5分	<p>1 問題を把握する。</p> <p>⑤ おかしが12こあります。3こたべると、のこりはなんこですか。</p> <p>○分かっていること、聞かれていることを確認する。</p> <p>○立式して答えを出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ $12 - 3 = 9$ こたえ 9こ ・ 2から3はひけないから、12を10と2にわける。10から3をひいて7。7と2で9。 <p>○お菓子の具体物を提示し、どこから3個とるか考える。</p> <p>2 課題を設定する。</p> <p>⑥ どこから3ことるかかんがえよう。</p>	<p>・既習の減加法を用いて答えを出させる。</p> <p>・お菓子の具体物を提示する。生活経験に基づいてなるべくお菓子を動かさないとり方を考えさせ、本時の課題につなげる。</p>
見通す 5分	<p>3 見通しをもつ。</p> <p>○解決の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箱の外のお菓子から先にとる。 ・ばらの2を先にとって、あと1をとる。 <p>○方法の見通しをつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック ・まる図 	<p>◎適切な取り方をつかませるために具体物を用いて、ばらから先にとる方法（減々法）に着目させる。（視点1）</p>
自分の考えをもつ 8分	<p>4 自力解決をする。</p> <p>○ブロックを使って計算の仕方を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・12は10といくつかを確認し、10のまとまりを意識させてからブロックを準備させる。 ・ブロック操作のあと、自分の考えを整理するため、ノートにまる図や簡単な言葉をかかせる。

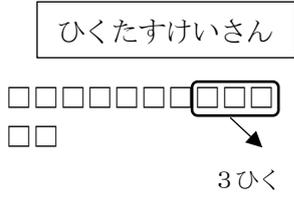
<p>学 び 合 う</p> <p>23 分</p>	<p>5 全体で検討する。</p> <p>① 自分の考えを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ばらの2からひいて、10 のまとまりから1をひく。(減々法) <p>2から3はひけないから、 はじめにばらの2をひいて10。 10からあと1をひいて9。</p> <p>$12 - 2 = 10$ $10 - 1 = 9$</p> <p>② 減加法と減々法を比較して類似点と相違点を見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらも答えは同じ。 ・どちらも12を10と2と見ている。 ・初めに10のまとまりからひくのと、先にばらからひくのが違う。 ・ひいてたすのと、2回ひくのが違う。 ・ひくたす計算とひくひく計算が違う。 <p>6 まとめる。</p> <p>㊦ひくひくけいさんで、ばらからさきにとってもよい。</p> <p>7 適用問題を解く。</p> <p>$11 - 2$</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実物投影機を用いてブロック操作で発表させる。 ・ブロック操作をまる図や言葉、式に結び付け、今までと違う方法であることを確認する。 ・被減数のばらの2が減数の3に近いことから、ばらを先にひくよさにふれる。 <p>◎ブロックや図を使いながら説明させ、減加法と減々法の2つを比較して、類似点や相違点に気付かせる。(視点2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・類似点、相違点を見付けることで、どちらの方法でも答えを出すことができることを確認する。 ・どちらの方法も「10といくつ」という数の見方に着目し、既習の計算に帰着していることに気付かせる。 <p>【思】被減数、減数の大小に関係なく、10のまとまりから1位数をひくことに着目して計算の仕方を考え、操作や図などによって説明している。(ノート・観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック操作をしながら減々法で解かせ、本時の学習の理解を深める。 ・ペアで、ブロック操作をしながら答えを確認し、その後全体の場で説明させる。
<p>振 り 返 る 4 分</p>	<p>7 学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かったことや、思ったこと、次にやってみたいことを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの視点を示し、学びの自覚化を促す。

(5) 板書計画

11/10

④ おかしが12こあります。
3こたべると、のこりは
なんこですか。

しき $12 - 3 = 9$
こたえ 9こ

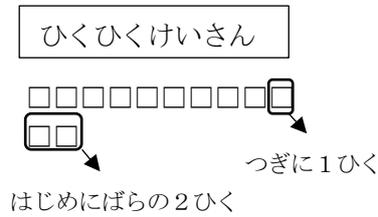


はじめに10から3をひく。
つぎに7と2をたして9。
 $10 - 3 = 7$ $7 + 2 = 9$

⑤ どこから3をとるかかんがえよう。

(おかしの絵)

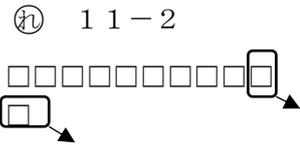
⑥ ばらからさきにとる



はじめにばらから2をひく。
つぎに10から1ひいて9。
 $12 - 2 = 10$ $10 - 1 = 9$

⑦ ひくひくけいさんで、ばらからさきにとってもよい。

ばらのかずが
ひくかずにちかいときはべんり



$11 - 1 = 10$ $10 - 1 = 9$

⑨